

教育等に関するアンケート（教育長・公立学校長）集計結果

（平成 27 年度アンケート実施）

1. アンケートの概要	1
(1) 目的		
(2) 対象者		
(3) 実施時期		
(4) アンケート内容		
(5) 分析機関		
2. アンケートの結果	2
(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象		
(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象		
(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力		
(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望		

1. アンケートの概要

(1) 目的

本学の教育の状況について、デマンド・サイドの意見を把握することにより、教育の質の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ることを目的とする。

特に、本アンケート結果は、在学生にとって、卒業・修了後に教職に就く（現職教員である大学院生にとっては、復職する）際に、学校現場からどのようなことを求められているかを知ることができ、修学への強い動機付けとなることを期待する。

(2) 対象者

徳島県内の教育委員会教育長，徳島県内公立幼・小・中・高・特別支援学校長：対象者 456 人，回答者 347 人（回収率 76.0%）

(3) 実施時期

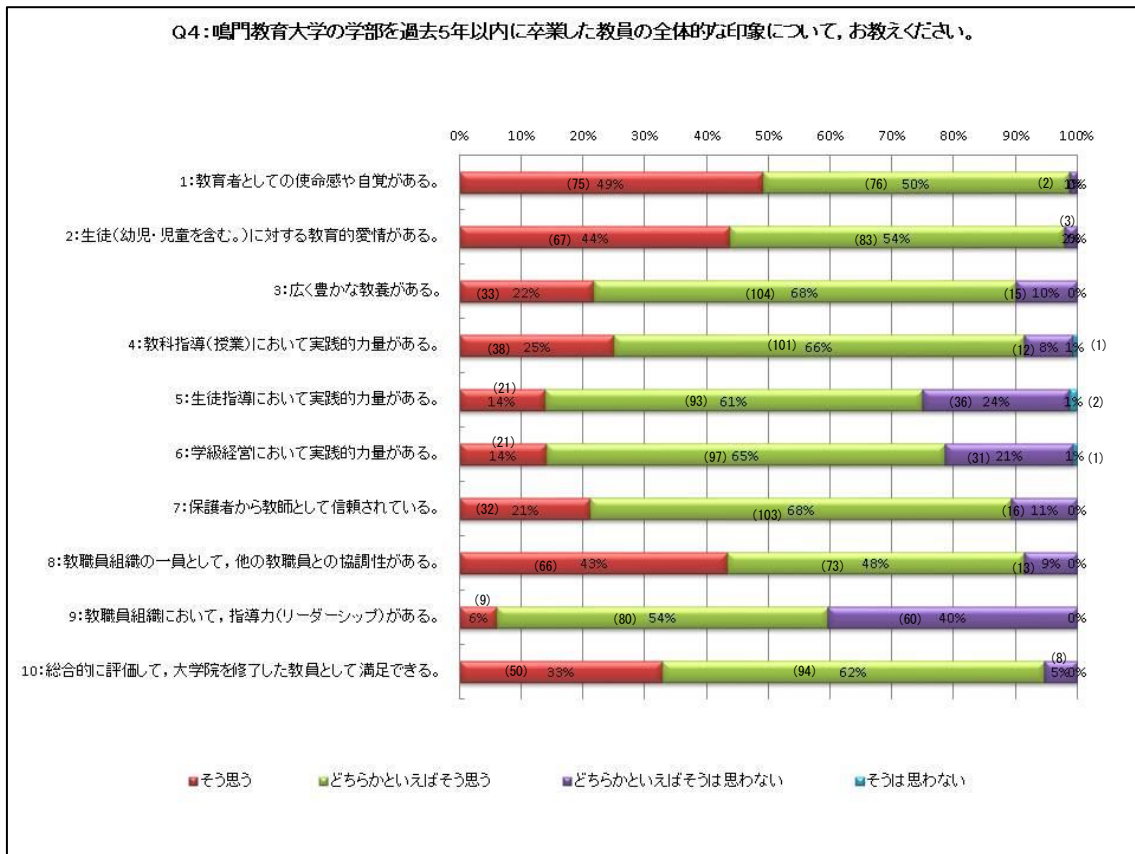
平成 27 年 10 月に、各教育長・学校長あてにアンケートを郵送した。

(4) アンケート内容

- ①本学の学部を卒業した教員の全体的な印象について、4 件法で回答を求めた。
- ②本学の大学院を修了した教員の全体的な印象について、4 件法で回答を求めた。
- ③本学で伸ばして欲しい能力について、責任感、コミュニケーション能力、専門領域における知識など 15 項目を設定し、3 件法で回答を求めた。
- ④本学の教育について、自由記述で回答を求めた。

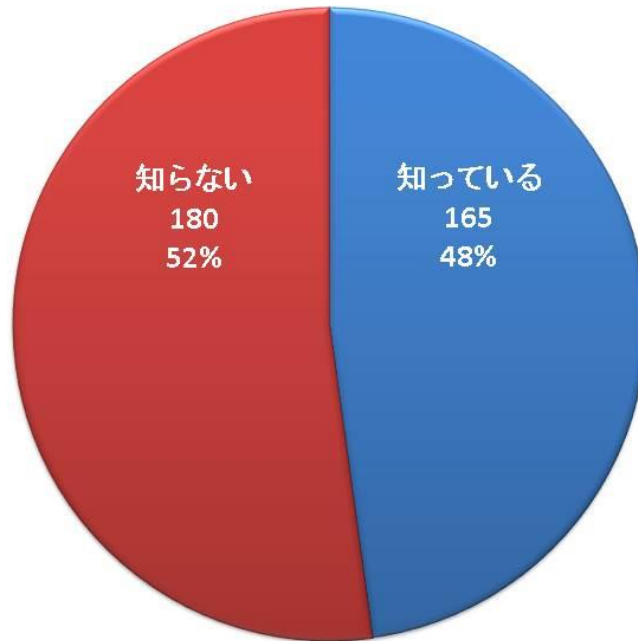
2. アンケートの結果

(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象

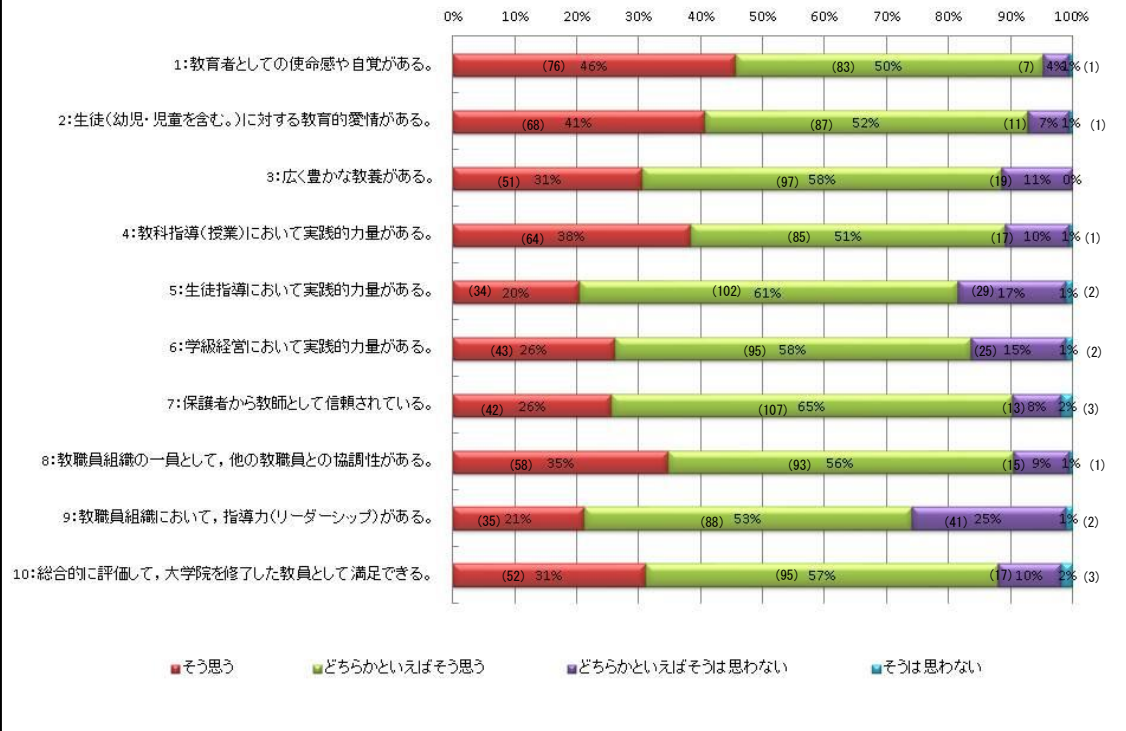


(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象

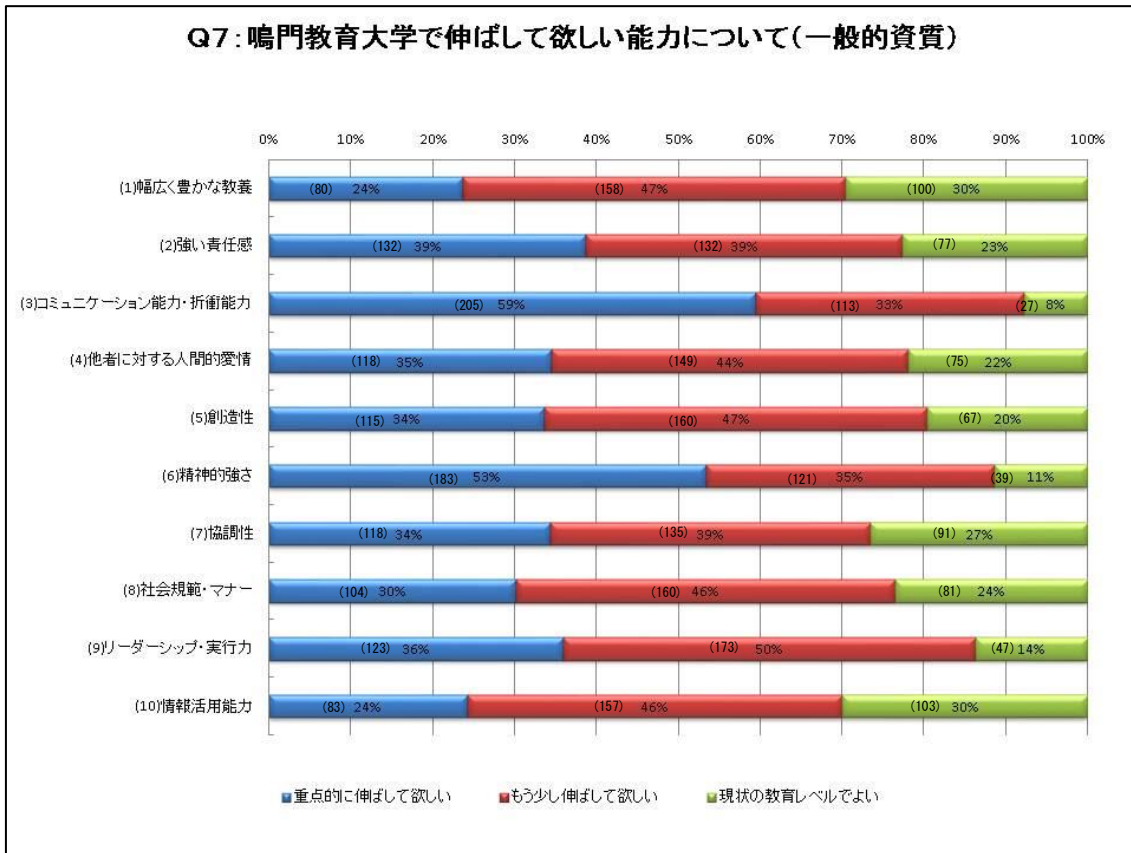
Q5: 鳴門教育大学の大学院を過去5年以内に修了した教員をご存じですか。



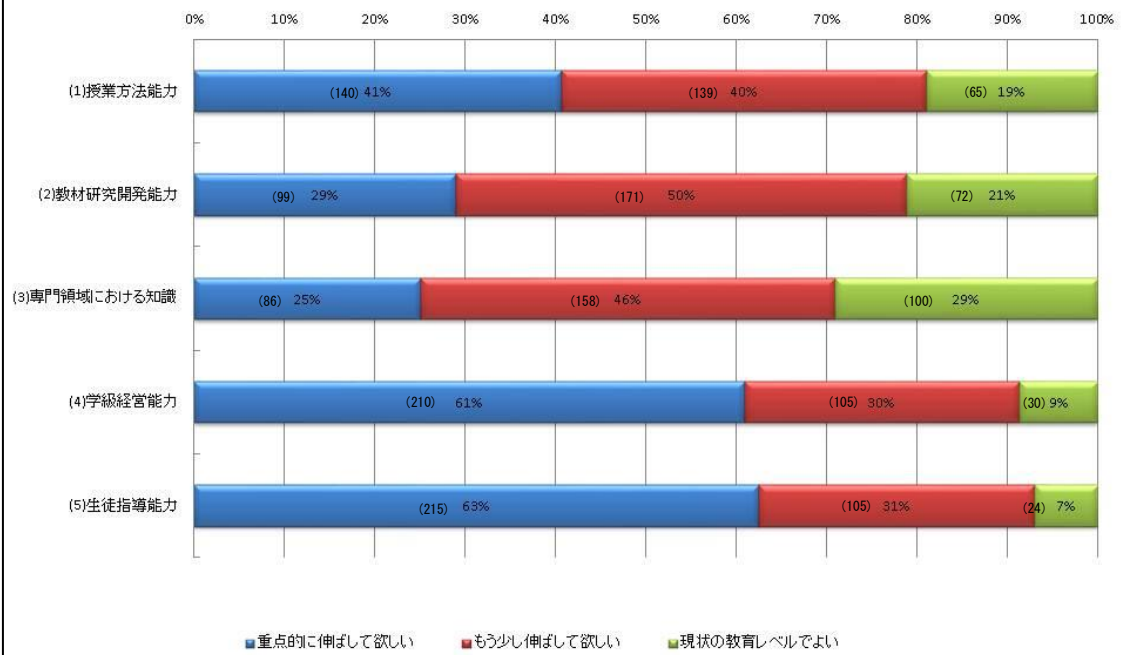
Q6: 鳴門教育大学の大学院を過去5年以内に卒業した教員の全体的な印象について、お教えてください。



(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力



Q7: 鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力について(教育資質)



(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望

Q8：良いと思われること

- 「つながルーム」のように現職教員の研修に積極的にかかわってくれるところ
- 地元出身者の多くを教員として養成してくれている
- 徳島県の採用率が高い
- おおむねよいと思う。
- 学生、院生は本当に教員意識が高い人が増えてきています。
- これからも魅力ある教員を育成してください。
- 学校現場での経験をできるだけ多くとって教員としての技量をしっかり身につけてほしい。
- 大学の授業や本で読むだけでは学べないことが学校現場ではたくさんある。
- 学校は積極的に受け入れていくよう努力していく。
- カリキュラムが進化し、良い人材を輩出している。
- 教育学部系の大学なので、教育活動全般への専門性が高いと思う。学校ともっと連携していけば、さらによいと思う。
- 教育実習が多く、担当の先生もしっかりと学生のお世話をしてくれています。
- 教育実習では、教育に対してまじめに取組み、実習生にとっても子どもたちにとっても非常によかったと思います。
- 教育実習を重視して、現場ですぐに役立つ学生を育成することができている。
- 各教科の教材研究はよくできている。
- 教育について専門的に学べることだと思っています。また、スタッフもその道のプロであるということです。学生は徳島だけではありませんが、これからの徳島教育の一翼を担う教員を多く育てることで、徳島の未来を切り拓く子どもを育ててほしいと思います。
- 教員経験後に教職大学院に入学することは、自分を見つめ直すことになり良いと思う。
- 教員のさらなる資質向上につながっている。
- 実践を通して身につけた力を学校で生かされ、他の教員と共有することができる。
- 自分自身の課題や学校における課題に対して前向きである。
- 教材研究等、授業に向かう学生の態度や技能を熱心に指導しているのではないかと思う。
- 教職大学院が設置され、より実践的な研究がなされるようになった点が良いと考えます。
- 教職大学院で学んだ教員が現場でその成果を発揮してくれていて有り難い。
- 大学の先生方に学校経営や教育活動への助言をいただき成果が上がっている。
- 教職大学院においては、体系的な知識の習得と学校課題フィールドワークでの実

践的なスキルの習得により、理論と実践とを融合させた確かな専門性を備えた教員の育成が期待できる点。

- 教職大学院の院生の研究テーマが、所属校の抱えている課題に対して支援していく研究内容であったため、大変ありがたかった。特に2年目の学校現場での研究実践において、生徒への支援の質が高まり、教員の学びにもつながった。
- 教養や知識に関しては、幅広い知見があり、教育について議論や意見交換ができる。
- 近年、教員として、より実践的な力量を身につけた学生が育っていると感じます。
- 現職教員が大学院にて学び直しができ、さらに高度な知識や技能を身につけて教育現場に帰ってくることは現場では大変約に立つことです。
- 現職教員の専門性向上に大いに貢献してくださっていると思います。
- 県内にあり、有効に活用できればよいと思う
- 現場のことをよく考え研究実践をされていると思います。
- 現場の実習を多く取り入れるなど実践的な研究に取り組んでいるところ
- 現場を離れ、専門的に学習に取り組める。
- 高度なレベルで計画的な運営が行われているという印象をもっています。過去に教育を受けた方や現在教育を受けている方の様子をみたり、お話を聞いても充実していることがわかります。周囲から貴校教育に対する信頼も厚い。
- 子どもに真摯に向き合う姿勢
- 熱心に教材研究をする態度
- 私が個人的に知っている1名に関しての感想です。
- 採用審査の合格率が高いこと。
- 様々な工夫がされており、すばらしいと思います。
- 実践力を育成する点では着実な取組と成果を感じられる。
- 地元徳島の「教育」の現状に合った内容が取り入れられていること。
- 地元の学校と連携を多く図っている点はたいへんすばらしい。
- 授業研究やその他の教育活動について研究及び学習を積んできている学生が多い。
- 以前に比べて、教職への意欲を持った卒業生が増えており、先輩からの助言を活かそうとする姿勢が見られる。
- 少人数で、現場経験者の助言等を活かしながら丁寧な指導がされていること。
- 職務に意欲を持って取り組んでいる。
- 新卒の子2人しか見ていないので、はっきりとわかりません。しかし、まじめな勤務態度でした。
- 新採3年目の先生と1年間ともに勤務しましたが、諸先輩の支援や指導を素直に受け入れ、自分なりに昇華し、学級で生かしていました。
- 人間性を高めていただいているのだと感じました。
- すばらしい教員を育てるために力を入れている。
- 先生方が、学生によく関わってくれていて、学生が相談しやすく、温かい先生方が多いと聞いている。講演会をはじめ、現場にも近い存在の先生方も多く、教育現場

の実態をよく理解したうえで、それらを学生達へもフィードバックしてくれている点

- 卒業生の多くが教職についている。
- 卒業生の中において、現場に実力のある教員として育てている教員がいる。今後、鳴教大卒の教員が大学とのネットワークを活用し、活躍できる力をつけ、個人のみだけでなく大学の力も活用し、徳島県の教育界をリードしていける教員の育成を目指して欲しい。
- 大学、大学院の教育の実情が見えないため、よくわかりません。
- 大学と大学院を含めて、5～6人の教員を知っている。アンケートに回答したが、人それぞれによってかなりの違いがある。要は人間性の違いだと思う。学校経営を進めていくうえで理論や考えを大いに参考にさせてもらった教師もいる。また大学を卒業して、すぐに教採に合格し貴重な戦力として、活躍している教師もいる。
- 大学の教育がどのように行われているか見る機会が無いのでよく分かりませんが、素晴らしい人材を輩出していると思います。
- 大学の教育内容について詳しく存じ上げないのでコメントは控えさせていただきます。
- 徳島県（県外も含む）での採用率が高いが、それだけの資質（*）を育てている。教員養成が大学全体で極められているのだと感じさせられる。
- （*）授業力、教員としての協調性他、求められるもの（寛容性、公平性、社会性（常識）など）
- 鳴教大の教育についてよく知らないのだからわからない。
- 鳴門教育大学卒業と同時に正（新）規採用となった方が、毎年本校に1～2名赴任しています。とても真面目で、初任者研修に熱心に取り組んでいます。ノート（メモ）をとったり、文書を作成したりするのが得意な方が多く、大学できちんと指導されていることが感じられます。
- また、知識的な面でも、よく勉強されているようで、専門的な用語、指導方法なども知識としてとても豊富であると思います。
- ボランティアも含め、学生に現場を経験させようとする機会を多くしている。
- 教育実習にしても熱心な学生が育てている。
- 院生にとって、自分が抱えている教育課題を解決するのに専門的な分野から、深く掘り下げることができる。
- 教育現場と深くつながりながらの研究が進められている。
- 本校に毎年数名の学生がインターンシップに来て頂いています。どの学生もやる気がみられ人物的にも非常にしっかりしていました。共通に良かった点は礼儀正しく覇気があったことです。いろいろ聞いてみると中学・高校時代にスポーツ（文化）を一生懸命やっていたということです。もちろん現在も継続している学生もいました。
- このように専門的な分野の教養のみでなく文武両道全ての面で現場で通用する教員を育てて頂ければと思います。（※ここ三年、本校にインターンシップで来てくれた

学生は非常にレベルが高いと感じました)

- 毎年9月に本校に鳴門教育大学4年生がインターンシップ教育実習で来ているが、すべての学生が熱心であり、担当の教員によく話を聞き、子どもたちに向き合う時間を大切にしている。教材研究にもきちんと取り組み、子どもに対する教育的愛情があると感じている。学生がそのように教育に対して取り組めるのは、やはり、鳴門教育大学での先生方の学生に接する様々な指導が適切であるからだと思っ
- ている。
- 教員採用率が日本一であるのも大学での日々様々な教育への取組の賜物でしょう。
- まじめに取り組む先生が多い。
- 教員になってからも大学とつながって指導を受けている先生がおり、指導や、教授の方々に魅力があるのだらうと思われる。
- 身近に貴大学卒業生がいないので、教育内容等、十分に理解できていません。
- 申し訳ありませんが、よくしりません。
- 豊かな教授、講師等の中で、他の大学に比べて、全体的には、安定した教員を育ててくれていると思う。
- よく知らないので返答できません。
- 私が知る方は、すばらしい人間性、豊かさをもっておられ、教育熱心で子どもへの愛情も豊かです。又、ひかえめですが、教師としての資質も十分にあります。これからの教育界で活躍される方だと思います。
- ただ、知っている方だけのことでありますので、全体としてはわかりません。
- 地元（徳島県）の教育と密接に連携していただいている。
- 小中学校の教員をめざす学生にも、特別支援の免許状を取得できるようにして下さっている。
- 地元徳島を大切に思い、その中で子供達を教育しようとする使命感を育てている点
- 採用審査に通るための適切な指導
- 一人一人の学生の資質を大切に育てている点
- 附属学校での実習ができる。
- しっかりした目的意識を持って入学してくる学生には、多様なリソースや学びの場があり、教員としての基本的な力量が確実に身につけられる。
- 田舎で自然環境がよい。
- 現職教員とともに学ぶ機会がふんだんにある。
- 教員採用試験に対して学校がきちんと指導している成果と思われるが、現役合格者が増えている。
- 同じところで育てられた教員が共に歩むという意味では、県内教員の団結力に影響するのではないかと思う。
- 学業に集中できる環境にある。
- 時代のニーズを先取りした教育を実践しようとしている。
- 学校現場との交流をさかんに行っている。その結果、インターンシップ的な実践が多く、学生も即戦力が身につくつある。

- 学生の現場実習が多く実践的である。
- 学校の課題解決のために、学校まで足を運んでくださって協議をしていただける。
- 学校運営全般に広く取り組まれており、組織マネジメントについて非常に研究されていると思います。
- 支援教育も充実しており、講師の先生方にいつもお世話になっています。
- 学校教育現場での実習・ボランティアを多く取り入れているので、学校も助かるし、学生も実践力が身につく。
- 教職大学院は、学んだことを学校現場へ還元しようという教育を行っている。
- 学校現場の状況への配慮が良くされている。
- 教員採用現役合格が多い。
- 実習や現場の経験を大切にし、教育課程に多く位置付けている。
- 実習生は、現場で学ぼうとしている意欲が高い。
- 教育現場で役立つ実践に取り組んでいるところはよいと思う。
- 所属校との連絡を密にとる意識づけが大切だと思う。
- 教育者としての使命感や自覚をもった教員を育成している。
- 教科指導における基本的な知識と技術を持った教員を育成している。
- 社会規範、マナーを身につけた教員を育成している。
- 教育の専門職としての知識・技能等をよく指導している。
- 地域貢献を積極的に行っている。
- 教育関係機関との連携を密にとっている。
- 教員採用がはやく、カリキュラムが適正である。
- ボランティア等にも、積極的に参加している。
- 教員に必要な資質・能力を育て、高めていく教育環境が整っている。
- 教職大学院においては、リーダーとして他の教職員を引っ張って行こうとする意欲が感じられた。(現場に帰ってきた、教員の言動より)
- 県内の一部の地教委においては首長の意見が教育行政を動かし、公務員に悪影響を及ぼしている事例も見られる。良識ある鳴門教育大学の先生方に、首長と新教育長、新教育委員会制度等について、現場の視点に立った、あるべき姿の見本、好事例等を示していただければと思う。
- 教職について、基本的なことを身につけていること。
- 徳島県の場合、地元であり意欲的であるということ。
- 学校のチームの一員として、動くことができる。
- 専門の教科、また、免許外もまかせられること。部活動の指導ができること。
- 堅実な成績で教員をめざす学生を多数送り出されていることに感謝しています。
- 教育実習やボランティア活動などに積極的に取組、芯の強い耐える力をさらにつけていけるといいなと思います。いろいろな失敗体験もしながら、その中から学んで、人間的に強くなった先生を育ててほしいと思います。
- 現職の悩みや実態についてよく理解し教育職につくものの育成について努力していると感じている。

- 久我教授の分析、実践でのアドバイス等には、本当に感謝しているし、教員生活での指針となっている。今後ご指導をいただきたい。
- 現場の教育課題をとりあげ、それを研究テーマにしている点
- 現場での実習等を多くとりいれている点
- 学校現場の勤務経験がある大学教員の方から指導を受けている点（現場のニーズをよくわかった教育を進めている）
- 実習が充実しているので、現場で働く時に生かすことができる。
- 指導案の書き方についての経験豊富である。
- 実習生、卒業生とも、とても良くなっている。
- とても実践力がついている。
- 児童に対してきめ細やかな温かい対応ができる教員が多い。
- 指導力は高く、知識が豊かであると思います。
- 若い先生方にはコミュニケーション能力を豊かにしてほしいと思います。
- 幼稚園教諭をめざす職員が増えてくれることを願っています。
- 地元の小・中と連携・協力をしながら、子どもたちへの生きる力の育成に取り組んでいる。
- 近年、インターンシップでお世話になる学生さんは、意欲的で、正規採用され、教育現場で活躍してほしいと思う、人材が多くなってきている。
- 授業実践（教科書を教える）の力を実践的教育を通して伸ばしているところ。
- 積極的に現場に入ろうとする姿勢が良い。
- 理論はわかっているけど、子どもはどんな反応をするかわからないので、現場に入るのとはとてもいいことだと思う。
- 専門教科に対する知識理解
- 専門知識が身につけており、学校の中心になって動くことができている。
- 生徒指導面でも知識が広く、児童対応能力にすぐれている。
- 専門能力を十分生かして教育に取り組んでいる。
- 高い専門性を身につけている。
- 意欲的に職務にとりくんでいる。
- 同大学を卒業した先輩方が近くにいる。
- 人間としてよい面をたくさんもっている。
- 謙虚な姿勢の人が多い。
- 徳島県下の様々な校種の学校と連携した教育問題の解決に向けた取組をさらに広げてほしい。
- 教育支援講師・アドバイザー等派遣事業で、昨年は校内研修が充実したものになった。（更に派遣費用も心配いらなかったのだ）
- 附属学校や鳴門市内の小中学校との連携が充実しており、教育実習や学習支援ボランティアなど現場で活かせる能力を高める機会が豊富である。
- 学生数に対する教員の数が多く、きめ細やかな指導を受けることができる。
- 採用試験対策が充実しており、特に二次試験対策では模擬授業や面接などの丁寧な

指導を受けることができる。

- 部活動やサークル活動に対する支援も充実しており、学生課の方が相談にのってくださったり、親身になって対応して下さったりするので、ストレスなく楽しむことができる。
- 「教員になりたい」という強い思いを持った学生が集まってくるので、苦しいときも頑張ることができるし、悩みも共有できる。
- 本校には、学部を10年以内に卒業した者が2名いる。二人とも熱心で日々教育愛にあふれた教育実践に取り組んでいる。二人とも子どもから学び、共に成長する態度があり、信頼を得ている。
- 教員採用試験対応、対策も早期から行き、教師への意識づけを行っているというところ。
- 学びたいと思えるコースがたくさん有ることで、選択が広がる。
- またコースごとの内容も web 等で大変わかりやすく紹介されている。
- 就職に関しても、しっかりした体制ができており安心である。
- 優秀な教授陣が、少数の学生に対して非常にきめ細かく指導して下さるとのこと。
- 希望する学生に対して、学校の支援ボランティア等の経験を積ませるなど、体験を通じた学びの機会を設定しているということ。
- (大学内だけでなく、県内地域への貢献という点でも素晴らしいと感じています。)
- 礼儀正しくたいへん好感がもてる。
- 熱心に勤務し、向上心がある。
- 院生さんについては、落ち着いた態度で、子どもから見ても安心できる。
- ①大変まじめで勤勉な人材が多く、教育公務員としての素質を十分に伸ばし、卒業後、活躍されている方が多いと思う。
- ②学習指導案の書き方、コンプライアンスの遵守など、教員として行うべきベースは確実に身につけている。
- 以前に比べていっしょに働いている教員(卒業生)の質が高い。それは全て鳴門教育大学・大学院の先生方の指導によるものと考えている。
- 色々な方法で、しっかりと指導していただいていると思います。
- 学生時代にボランティアで学校に入り、担任の補佐的役割を担ってくれている。これは本人が教師になった時にすぐ生かされているように思う。とてもいいシステムである。
- 学生数が少ない点を長所ととらえ、丁寧に個々の資質向上を考えた教育を行っているというところ。
- 学生ボランティア等で積極的に取り組んでくれています。
- 学校現場に勤めながら入学し、より専門的に学び、教師として資質向上をめざすことができる。
- きめ細かい指導ができていると思います。
- きめ細かく丁寧である。

- 教育大学としての特性を生かした教育がなされている。一年目からある程度の資質・能力が備わっている。
- 教育内容をよく知らないので・・・。
- 教員としての基礎・基本ができていると感じる。様々な経験や体験を通して身につけていくものと、責任感や教員としての情熱等、最も基本であり大切な資質や能力を伸ばしていただいていると思う。
- 教員としての基本的な資質、能力を備えた人材の育成及び教育に携わる者としての意欲や責任感のある教員を養成している。新任といえども、授業力、生徒指導、学級経営について実践力が身につくような教育が行われていると推察される。
- 教員としての資質向上が十分図られている。学生、院生はたいへん礼儀正しく、協調性もあることが多かった。
- 教員としての能力も高く意欲的な学生が増えてきていると思います。これからは素晴らしい教員をたくさん育ててほしいと思います。
- 教員になるための指導が手厚い。
- 教員になろうという強い思いをもって大学で学んでいると思う。
- 専門的な知識がもてるようとても努力している。
- 大学院を出られた方は、より自信をもって教職にあたられている。
- 教員養成にむけ、きめ細やかな指導、実践が行われている。
- 教科の指導法や、生徒指導等、学んだ分野についての知識は十分に身につけている。各校でそれを活用し、教職間や各分野での活かし方が問題であると思う。
- 今後とも教員の資質向上のために、学校組織の充実のために、鳴教大の支援をお願いしたい。
- 教師という職業を目指して頑張ろうとしている学生をしっかりとフォローし、育ててくださっていると思います。
- 教職大学院の教育現場の課題に取り組んでいく実習科目は素晴らしいと思います。そして、その取り組みが現場に還元できることを望みます。
- 現在、鳴門市内の小学校に勤務していますが、教育実習以外で、絵本の読み聞かせや、授業のサポートに学生が教室に入り、直接児童の支援に関わってくれるので、一人でも多くの人手がほしい教育現場にとっては、たいへんありがたいと思います。先日の市小学校陸上運動記録会においても、学生の協力をいただいているとのことで、感謝の気持ちでいっぱいです。
- 現状の教育で良いと考えている。
- (実習への意識や協調性・他者に対する愛情をもって取り組んでもらうとうれしいです。)
- 現状のまま学生達を伸ばしていただけたらと思います。
- 現場教員が、経験の上にさらにキャリアアップ、スキルアップして帰り、リーダーシップを発揮しながら、研修を高め、深めてくれている。
- 現行の教育の状況、流行、未来像を現場に持ち運んでくれる意味でも意義は深い。
- 本人のキャリアの中でも、技術、資質、意識などの変革、変容の大きな機会である

ことが、同僚として側面からではあるが実感している。

- 現場の高校や中学などと密に連携をとり、実際に学校での実習を多く取り入れて、テーマを決め研究に取りくんでいるところがすばらしいと思う。
- また、指導する教授や講師の先生方も、熱心に指導され、学生とともに学んでおられる姿も良いと思う。
- 校種を問わず、学校現場に積極的に入って実習をしているところを、今後も継続してやっていただきたい。学生の間にはいろいろな校種を見て、現場を知ることは重要であるとする。
- 高等学校の教員は教員養成系の大学出身者は少ない。そのため、教育に関する専門科目の履修は教員免許状取得に必要な単位数しか修得していない場合が多い。現場の教員がさらに高いレベルの教育に関する専門知識を学べる場として、鳴門教育大学大学院の教育は必要である。
- 最近では丁寧に親身になって指導されていると思います。粒のそろった卒業生を輩出していると思います。
- 最近の卒業生が周囲にいないのでコメントできません。
- 採用率が高い
- 資質・能力の高い教員を育てていると思います。アンケートにも書いていますが、学級経営能力や生徒指導能力、保護者対応力などは実際に教員になってから徐々に身に付けていく力であるような気がします。そのためアンケートの評価は低くなっていますが、鳴教大卒業生の資質・能力が低いということではありません。
- 自然に囲まれて、自由な雰囲気があり、学びやすい環境だと思います。
- 実践的な教育を行い、即戦力となる人材を養成している点だと思います。
- また、教員就職率が高いということは、学生が教員という仕事に魅力を感じ、情熱を持ち続けることができるような指導がなされていると感じています。
- 実践にあった取り組みが行われているので、よい。
- 自分がお世話になっていた経験から言えば、幅広い専門性、教養、教材研究開発等の技術、論文を書く力(技術面も含めて)新しい教育論にふれる、はもちろんですが、改めて学ぶ楽しさを味わい、久しぶりにおちついて自分の指導のふりかえり等ができました。現場を離れることの不安や迷惑をかけることへのとまどい、金銭的なこともありますが、多くの教員に入学する機会をもってもらいたいと思います。
- 使命感があり、大変意欲的に校務に当たっている。また他の教職員とも協力的であり、チーム学校の若い担い手として活躍してくれている。何にでも積極的に取り組み大変好感がもてる。
- 地元にあることで現場の情報交換がやりやすい。
- 自由に快活という印象を持っています。
- 授業力は高いと思われる。ただ生徒の態度によってはその力が生かされない場合があるのは現場の教員も同じ！
- 経験を積むしかないのかな…?と思う。
- 少人数であるがゆえに、一人ひとりの学生に行き届いた指導がなされているようで

ある。

- 少人数でしっかりとした教育がなされていると思われる。
- 少人数の教育ができ、大学の教授等との距離が近い。
- 素晴らしい教員をたくさん輩出されている。
- 大学・大学院でどのような教育を行っているかについては、知らないのですが、貴学を卒業した教員で評価することになるが、本校で貴学を卒業した教員が4名いる。年齢で言うと46歳(男性)、43歳(男性)、40歳(男性)、39歳(女性)。特に男性の3名は本校の教職員の分掌の要として活躍しており、貴学の教育内容が優れていることを証明しているように考える。
- 大学・大学院とも一丸となって、より能力の高い教員養成に取り組んでいると思う。
- 徳島県とのつながりを重視しながら、各教職員が頑張っていると思う。
- 大学院で学んだことを、学校現場に還元することができており、学校現場を支える大きな力となっている。
- 大学院にて本校教諭が学ばせていただいているが、指導教授から丁寧な指導をいただき、大変ありがたいです。
- 大学院は、現職教員にとっては、たいへん良い研修の機会である。他県の先生や、いろいろな校種の先生と交流ができるところが良い。
- 対策等も十分にされていると思います。
- 退職後、自由な時間ができた時に、今までの自分が自分なりに取り組んできた実践をまとめるために入学したいと思えるような雰囲気を持っている大学・大学院である。
- 高い教員就職率をほこっているということは、それだけ充実した大学、院での教育がプログラムされ実行されている証拠ですばらしいと思う。
- 地域の幼稚園（学校）に貢献しているところです。
- 今年度も防災教育において谷村先生と学生さんたちにお世話になっています。私たちも常に防災教育は行なっていますが、鳴教大・院生さんたちは教材研究をし、教育内容を何度も練り直して考えたものを提供していただきます。
- 普段の保育では気がつかないような（できないような）保育内容を提供していただきます。
- 私たち職員も勉強になり大変ありがたく感謝しております。
- 今後ともよろしく願いいたします。
- 徳島の教育の為にも、地元県に教育大学があることは、本県の教育の振興に大きな効果がある(あった)と思います。
- 今後も資質と指導力を兼ね備えた教師の育成に尽力願います。
- 専門分野に秀でており、教科指導がたくみである。
- 鳴門教育大、院を卒業して教員になっている人には安心感をもって仕事をまかせることができる人が多いと感じています。
- 鳴門教育大学では優秀な教員を育てるための努力をしていると感じており、教員就職率の高さにも繋がっていると思っている。

- 特に大学院を卒業した教員は、学校において中核となって活躍している先生が多い。
- 鳴門教育大学の卒業生は、新任で学校につとめる場合、一定のレベルに達していると思う。大学で良く学んでいることは、すばらしいと思う。
- まじめで教育に対してまっすぐに熱心に取り組んでいると思います。
- 身近に鳴門教育大学・大学院卒業した方がいないので、アンケートに答えることができず、失礼しました。
- 無理だけれども教育学部以外の学部とのつきあい(学生時代のつきあい)があれば、もっと良い大学生活が送れると思います。
- 約10年前まで附属小学校に勤務していた者です。その後鳴門市に勤務したので、貴校の教育実習に長く携わってきました。貴校の学生はおおむね明るく熱心で、何事に対しても積極的に取り組める学生が多いです。現在も鳴教大卒の先生と一緒に勤務していますが、すばらしい勤務態度です。
- 優秀な教員を送り出し、教育界への貢献は大きい。
- 私自身が大学院でお世話になりました。もう20年以上も前になりますが、あの時苦勞しながらも身についた研究能力は今も役に立っていると思っています。
- 変化に対応し、自ら学んでいく力を身につけることができたと感じています。

Q9：要望や改善点

- 私立大のように、大学の説明会 PR をさらに進めるとよいのではないか
- 可能であれば、施設(大講義室等)を高校他の教員の研修会等に提供してもらえるとありがたい(県内私立大は実施)
- 本校は、臨時(講師)経験のない方や、あっても1年程度の方が採用されて赴任しております。(前述のとおり)
- そのため教員としてというより、社会人としての常識的なことを学んでいただくことが先決の方もいます。(例：報告連絡相談が不十分なため、自分でなんとか問題解決しようとして、逆に事態を悪化させてしまったとか)
- 中には、失敗経験があまりないまま社会人になったせいか「打たれ弱い」一面のみられる方もいます。反対にとっても自分に自信をもっていて、講師の人に対し、「上から目線」的な発言をする人も気になるようです。
- 教科等指導力、生徒指導力、学級経営力などは、経験によって高まっていくので、教員1年目から大きな期待はしていません。子どもに向かい合い、保護者の気持ちを理解して教育に取り組んでくれたら、十分であると思います。
- 社会人としての常識ある行動、周囲から学ぼうとする意欲、自分の実力をしっかりみつめ、謙虚な姿勢で周囲と協調していける人間性豊かな教員の育成を望みます。
- 教育現場は社会の混迷とともに多様化複雑化している。多様な価値感や生き方を受け入れたり、柔軟に対応していく力を育てることが、今後、すべての大学に求められることでもあると思うが、教師を育てる貴大学にも必要ではないか。
- 社会のグローバル化に伴い、国際的な視点や、国際競争において我が国が勝ち抜け

る創造力、発想の豊かさが求められると思う。また、学校においてそのような人材を育てられる教師、その人がまず創造力や発想の豊かさが必要であると思う。

- 全国的な少子化により、学校規模が小さくなっている。そのため、複数の免許（教科）を持っている教員の存在がありがたい。特に、技家美音体は、その教科だけでは無理である。中学校どおしで2科目（2教科以上）の免許の保持を期待する。
- 中学校では、部活動が大切である。特に運動部を指導できない教員は困る。そのため、鳴教大のサークル活動のさらなる活性化を期待している。教員に採用されたとき、現場としては若い教員には、ぜひとも部活を担当してほしい。中学校では土、日、休日なしの勤務になるが、それにあえて臨んでくれる教員を切望する。部活動を担当できない教員は優秀であっても必要なし。
- それと、これは、個人的な希望であるが、徳島県には、中学校85校あるが、そのうち現在60校に「ソフトテニス部」がある。中学校の場合「テニス部」は少ない。大学教職の一貫性を考えて、貴大学に「ソフトテニス部」も構想に（新設になるが）入れてほしい。
- ICT活用能力の育成
- プレゼン能力、事務処理能力
- 課題解決力
- 学力向上、生徒指導
- 保護者、地域住民等との対応力
- コミュニケーション力、マナー
- 少人数の短所は、多くの者の中で切磋琢磨する機会が少ないことだと思います。定数を増やすことは難しいと思いますが、それに替わる機会や、企画を考えていただけたらと思います。
- これからの日本や、世界又徳島においても急激な人口減のように変化が大きく早くなっていくように感じます。より主体的に判断し取り組むことができる人間を育成していく必要があると考えています。
- 今後ともよろしくお願いします。
- あまり型にはまらず、失敗を恐れず行動力、実践力を備えた人材の育成を期待しています。
- 院に行って2年目は、どのように活動しているのか?取得しているものによって学校への対応(ほとんど学校に来ない人、週1回は来て学級に入ってくれる人)があまりにも違うのでびっくりします。
- 英語の能力を会話や指導法を中心に高めて欲しい。
- 学生生活をチェックし把握するのは困難であるとは思いますが、教職を目指す者としての規範意識やコンプライアンス意識の醸成の場を設けてしっかり取り組んでいただきたいかと言って優しく純でありすぎても折れてしまうし、難しいですよネ
- 学部大学院を修了した教員を複数名知っていますが、個人の資質能力等にやや差があり、判断に迷うことがありました。
- 過去に（今はないと思いますが）小学校教育課程を修了して教員になった者が、「音

楽出来ません」「ピアノは弾けません」と平気で？言う教師がいました。国立大学の教員養成課程を修了している方は模範となってほしいと思います。

- 中学校では、ほとんどの学校で部活動を担当していると思いますが、特定のスポーツを希望しても担当させる余裕は学校はありません。若い教員には、なんでも担当するという気持ちと行動力が必要です。
- 学級経営や生徒指導について具体的な事例を通じた授業を多く取り入れてほしい。
- 学級経営力、生徒指導力の強化をお願いします。
- 学校現場での課題が、最近ではどこの学校も保護者のクレームに対する対応の仕方が一番の問題である。そうしたことから、生徒指導のあり方と共に保護者対応の仕方についても学んだ方がよいと思われる。
- 学校組織の一員として積極的に学校運営に関わろうとする教員をつくってほしい。そのために、Q7「1—一般的資質」について「強い責任感」等を上げさせていただきました。「学校教育目標達成のため、校長の経営方針にそって自分は何ができるか」を考えることのできる教員が多く育つことを願っています。
- 学校と大学の垣根が低くなってきたと思います。ますます協働や成果の交流が進むことを期待しています。
- 貴学を卒業された教員の大半は教師としての基礎知識を身につけられている。大変良い教育をされていると思います。
- 基本的には、大変よいと思います。
- 一人一人ちがうと思いますが、途中で退転してしまった人がいたため、現場は困りました。その一人一人のことで、あとの人はがんばっています。
- 教育、教育者としての基本や心構え、また、コミュニケーション能力など教員として仕事をする基礎をしっかり指導してください。
- 教育改革の最先端を行く、ICT活用やグローバル化への対応、アクティブラーニングなど、どんどん研究を進めてほしいと思います。
- 教育学以外に実際の学校での危機対応について実例等から学ぶ（身につけさせる）必要があるのでは？
- （卒業後即採用となると4月一人での担任が始まる。授業や学級経営以外に保護者への電話対応（クレーム）や反社会的な行動への対応他）
- 教育実習に来る実習生の中に、一部ではあるが資質に欠けるとと思われる学生がいます。大学として、これら一部の学生を実習させないようにするのは無理でしょうか。（明らかな者がいればですが）
- 教育者としての使命感や、学級経営能力、生徒指導の力を今後とも更に身に付けさせて教育現場に送ってほしい。
- 教育内容を創造する（特に総合的な学習の時間特別活動）力を実践的に養成してほしい。
- カリキュラムマネジメントの力を育成してほしい。どんな目的でどのような内容を学ばせ、評価し、何を改善しなければならないのか。
- 教員採用現役合格者が多いということは、卒業とともに正規教員となり担任を持つ。

現在、学校は多忙感や保護者対応で困難さもますます高まっている。実践力の育成に一層期待している。

- 教員採用だけをめざすのではなく実践力をしっかり育ててほしいと思います。そのためにももっと現場（学校）での経験を増やしてほしいと思います。
- 現場は知識がある人がほしいのではなく、実践力がある人がほしいのです。
- 教員としての資質能力のみならず、人間性をより伸長していただきたい。（組織の中の一員として光り輝けるように）
- 教員に向いている、向いていないを見きわめさせて、進路指導（就職指導）することも必要。
- 教員に求められる資質能力の中でもコミュニケーション力が特に大切だと感じているので、学生さんの教育においても重点を置いていただけると有難いです。
- 教員の加配等が減少する中で、鳴教大生（院生）を教育現場に派遣していただき、今以上に学校現場の実態を把握していただき今後の自らの活動に生かしてほしい。
- こういったことは、教育現場も学生さんも共に利益になることだと思う。
- 本年度も大変助かっています。
- 教科指導における専門的な知識や技術の習得に、より一層取り組んでいただきたい。
- 特別支援教育に対する認識を深めるとともに、多様な支援に対応するための知識と技術を習得するための取組を一層充実させていただきたい。
- 幅広い見識を身につけるための社会体験活動を充実させていただきたい。
- ICT活用能力を高めるための取組を一層充実させていただきたい。
- 教師として、上からの目線で子どもに関わりすぎている時や子どもに積極的に関わっていない時がよくある。
- 教師としての在り方や子どもとの関わり方について、しっかり教育をお願いしたい。
- 教師として、社会人としての社会常識やマナーを教えてください。
- チームとして働く協調性も伸ばしてほしいと思います。
- 教職員大学として難しいかもしれないが、現役教師と学部生の交流がもう少しあってもいいのかもしれない。（互いに時間の調整が難しいと思うが）
- 教職のすばらしさ、人を育てる意味、子どもと共に成長することの大切さなど教員としての根幹部分を今後とも教えていただきたい。
- 現在の学校が抱える課題に対して、対応でき、実践可能な新しい取組を提案し、仲間作りができる教員を育てて欲しい。
- 特にアクティブラーニング、ICTの活用
- 現状の教育で良いと考えている。
- 現代社会に対応できる豊かな人間性を備えた教員の養成に今まで同様、力を注いでいただきたい。
- 現場学校との連携の上での現場実践がもっとできればいいなあと感じます。
- 現場での実践的な時間を増やしたり、ボランティアに積極的に取り組んでいただきたいと思う。
- どうしても現場では即戦力となるような人を求めてしまう。

- 現場での実践力において、ややタフさに欠ける部分が見られること。
- せっかくストレートで新採用になったのに、1年もたたずにやめたという話を何度か聞かされた。
- 現場では、教員定数（加配）が厳しくなる中で、大学大学院を出たばかりの教員（臨時を含む）には、即戦力が求められている。
- その力をつける一番の舞台は、附属学校における主免実習や副免実習であると思われる。毎年厳しい学生も見られるようであるが、単位の関係もあり、ナマの声が十分に大学（元教員で面接や模擬授業を指導してくれる先生方）に届いていないのではないだろうか。
- 少数とはいえ、臨時採用された卒業生に生徒指導力、コミュニケーション力等に問題が見られ、現場が困っている現状がある。
- 附属学校の先生から、評価とは別にナマの声をしっかり吸い上げて、それらが指導できる大学教員につないでいただきたい。期待しています。
- 現場として大学に求める人材は、教師としての指導力や専門性は重要であるが、他人とのコミュニケーション力や人から学べる柔軟な姿勢である。
- 現場にすぐに使える教材の発掘（大学院）
- 即戦力になる教員の育成
- 現場のニーズに合った教育を教科指導はもとより、生徒指導、学級経営、学校経営などの資質向上
- 校長、教頭等の使命感や責任感、そして強いリーダーシップのある管理職の育成が必要と考えられます。現場と連携した具体的育成システムづくりがもっと必要です。
- 東京都や大阪府等では、管理職を目指す人材が減っています。（1.0倍未満）希望がない。地方もやがてその現象が出てくる恐れが考えられます。
- 高等学校への教育実習も実施して欲しい。
- 高等学校の教諭を目指す上で、小中の教育実習を経験することができるのは、大変有意義なことです。それに加えて、目指す校種である高等学校での教育実習も経験できれば、小中高のつながりや発達段階を理解した教員を育てることができます。まずは近隣の鳴門市内の2校（鳴門鳴門渦潮）と連携をしていただき教育実習の実施をして欲しいと思います。
- 地域と連携するような授業を開設して欲しい。
- 自分たちで、目的意識（地域の伝統行事を盛り上げる地域の防災訓練ゆるキャラ作成など）を持ち地域の方に交渉し連携を実現していく実践力の育成を目指した授業を実施することができれば、地域と連携するためのノウハウを持った即戦力として現場で活躍することができる教員が育ち、鳴門教育大学の学生の資質向上やイメージアップにつながると思います。
- 高度な実践力という点では物足りなさを感じることもある。元来持っている能力や素質という点もあるかと思うが、平均点でスマート過ぎるくらいがある。もっと、何かを打開するくらいの意気込み、勇断がほしいと願う。
- 個人的な問題なのですが、担当教員につけなかったです。中学校で教育実習をする、

細かなことが、院生さんお2人ともよくわかっていませんでした。考えていないので、質問もなく、まあ、ほどよく1ヶ月の実習を終えました。すごく残念でした。今年も、模擬授業と、生徒を前にして授業の区別は、教えておいてあげてください。

- 個人の能力(教える技術を含む一人でできること)に充実させるのもよいが、先輩教師から学ぼうとする姿勢は持っていてほしい。
- 組織の一員として働くことの大切さを持ってほしい。
- こちらからのアプローチがすくないためか、内容についての知識に乏しい。
- よって、改善すべき点が回答できる大学側からの更なる情報発信が必要ではないか?
- 子ども達が大学生と学校で触れ合って「大学っていいな」と思えたり、教員を志望する学生が子ども達とかかわって、さらに強い教師を目指す気持ちが持てるような講座や実習が多くあればいいと思います。
- 子どもと共に成長することを喜びとする先生を育てていただければ十分だと思います。
- コミュニケーション能力の向上
- 保護者対応能力の向上
- 生徒指導能力の向上
- これからも子どもたちのよりよい育ちに寄与する人材を送り出してほしい。
- これは、現場で醸成していかなければならないこととは思いますが、教育に対する意識、感性をみがいていくことに、力を注いでいただければと思う。
- 今後とも、次の視点に立った教育を推進していただきたい。
- グローバル化(英語力の強化、国際的視野)
- 地方創生(創造性、リーダーシップ)
- ③「命」(生命の尊厳、その心)
- 今後とも鳴門市の小学校中学校の教育活動発展のために、ご協力をお願いいたします。
- 今後も優秀な教員の育成をお願いします。謙虚な姿勢等も大切なところと思います。
- 今後予想される教育現場は、50代の教育現場における諸々のノウハウを持った教員が大量に退職してしまう状況にあり、20代、30代前半で現場の中核として校務を担当していくこととなる。その点をふまえてノウハウをできうるかぎり吸収し、実践していくことが必要であり、若いからということが通用しないことを心して取り組めるよう大学生の時からの意識づけが必要である。
- 最近、卒業生の教員に不祥事がありました。コンプライアンス教育もどんどん進めていきたい。
- 最近の卒業生が周囲にいないのでコメントできません。
- 教員の仕事は、ますます感情労働の面が増えていきます。子ども、保護者、教員自身の感情面でのマネジメントが必要になってきていると思います。
- 最近の若い教員になっている人の中に、小学校で習う漢字の書き順がよく間違っているが、そのまま、子どもの前で授業している。基本的なことではあるが正しいことがいつも教えられるように個々に努力してほしい。

- 大学院の研究ですが、所属している学校の児童で研究してほしい。(他校であると、様々な課題が出てきて取り組みにくいのではないかと思います)
- 採用後、早期に精神的な疾患を患う若い教員が増えている。(貴大学卒業生も含めて)
- 様々な子どもに向き合い、集団を組織するためには、人間的な大きさのようなものが必要だと考える。それは若い時に幅広い教養や体験で培われるものではないだろうか。
- 実践的なスキルも欠かせないが、大学時代でしか学べない教養や実体験を重ねてほしいと願っている。
- さらに、教育現場と連携した取り組みを進めていただきたいと思います。
- また、教育という仕事のすばらしさ、やりがいについての学びをしっかりとやっていただいて、情熱をもって、少々のことではへこたれない、子どもたちをよい方向に導いていける教員の養成をお願いしたいです。
- さらに有能な人材を学校現場に送るよう努力を重ねてほしい。
- 実習等による教育現場の負担軽減
- 研究課題にもとづく実践を学校で行うとき、その必要性を理解しない教員もおり、かなりの負担となることもある。
- 学校現場でリーダーとなる「やり手」の教員を教職大学院にいかせることは学校運営上大変苦しい。しかし、こうした人にしっかり学ばせたいという思いもある。
- 教職大学院で学んだ教員と学んでない教員の差はほとんど感じられない。「何ができるようになり現場でどう役立つのか」を明確化するとよいのではないか。
- 実習ボランティアでよくお世話になっています。
- 実践的な力をつけてほしい
- 実践にすぐに生かせるような経験ができる授業を豊富に取り入れてほしい。
- 自分で考え、自主的に行動する人を育ててほしい。
- しなやかで柔軟的なものの見方、考え方ができ、精神的にタフな人を育ててほしい。
- 授業力、学級経営力、生徒指導力をつけてほしい
- 主体性に欠ける人が多く、子どもとの関わり方には指導がいる。(愛情と厳しさ等)
- 大学や大学院だけの問題ではないが、失敗した時やうまくいかなかった時の弱さを感じる。(失敗体験から学ぶことなど、たくましさ欲しい)
- 主体的に学び続ける教員としての態度の育成
- 上記と異なり、教員採用試験の際に有利になるということですか？特別支援サポーターを希望するものがあると聞いたことがあります。実際に本校に特別支援サポーターを希望した学生の中に教員を志すにはまだまだほど遠い学生がいました。まず教員を志す前に人としてどうあるべきかが問題になってくると思います。現場としてもそのような学生が来ると、その学生に支援がいることになります。その辺り大学側で事前に精選して頂ければと思います。
- 上記とは反対に高度な教育内容の話もできるが、あいさつひとつもまともにできない教師や何の目標を持って教師をしているのかよくわからない教師もいる。
- 新任教員として最低限、身につけておかなければならない力(人への対応力、授業、

生徒指導、学級経営の基本等)をつけてほしい。大学の教育の中で実践に役立つ内容をできるだけ多く取り入れていただきたい。

- すばらしい実践をされている方も多くいらっしゃるの、いろいろな機会をつくっていただいて、県の現職教員への関わりを持っていただいて、広げてもらいたい。
- 全ての鳴門教育大の先生を見ている訳でないの、一個人や数人の課題だけで改善すべき点を書き記すべきではないと思う。一生懸命取り組み、個々の不足している箇所をそれぞれが獲得すべき努力しているので、数年の頑張りに期待したい。
- 精神的なストレスから病休をとる教職員は近年増加傾向にあります。貴大学、大学院を卒業し、正規教員となった中にもこうした病気を患い、休職している者が複数名存在します。まじめで丁寧な仕事を目指しています。柔軟性や大胆さに課題があるのが共通点のように感じます。
- 生徒指導等における方策や保護者対応力の向上
- 生徒指導に対する実践力(対応力)
- 生徒指導を体験的ではなく、より深い認識子ども理解に基づく対応のできるカリキュラムができれば役立つと思います。
- 責任感や生徒への愛情、学級経営能力や生徒指導能力は、学校現場に出ないとなかなか育てるのは難しいと思います。
- 逆に学校現場に出してしまうと、じっくり勉強できないことも多いと思いますので、そういう部分をしっかりやってほしいと思います。
- せまい地域の中で、教員をのみめざして取り組んできたので「教員」という型にはまりすぎる傾向があります。いろいろな視野をもって大きく広く考え方を広げてほしいと思います。
- 専門学科の教育を踏まえた学校運営(難しいと思いますが、本県大学すべてに共通する内容です。特に商業、家庭、水産、などの学科です。)
- 専門性がやや弱いような印象です。
- 専門領域と学校運営に関するマネジメントについてバランスよく伸ばす教育を望みます。
- 創造的なこと、クリエイティブなことをどれだけできるか(学校の中で)
- コミュニケーション能力(いい意味での)
- 卒業後に即戦力として活躍できるよう、教育的実践力をさらに育てて欲しい。
- 大学(院)における学びの深化、実践化について、一層の工夫、改善をお願いしたい。地元就職し、本県教育の発展に貢献できる人材を育成して欲しい。
- 大学、大学院在籍中は、いろいろと学ぶ中で、それを生かそうとする思いが感じられる学生が多くいたと思う。しかし、まだまだそれを実践(卒業後)に生かせる教員は少ない。このあたりの課題を改善に結びつくように努力をお願いしたい。(希望である)
- 大学院生さんが絵本の読み聞かせにきてくださいました。「おおきくなったら」という絵本を使って、子どもたちに質問しました。「大きくなったらできなくなることで何？」この質問には驚きました。

- 私は今まで「できることは何か？」という投げかけはしてきましたが、「できなくなることとは何か？」とは質問したことがありませんでした。
- 修士論文に必要であったようですが、この着眼点のすばらしさに驚かされました。
- いろんな分野の学生さんたちが幼稚園現場にかかわってくだされば、私たち職員や子どもたちにより影響が及ぼされると思います。
- 今後ともご指導よろしく願いいたします。
- 大学院で学習したことを現場で発揮して欲しい。
- 大学院を出た年に学級経営でつまづく教員が少なからずいると感じます。
- 現場復帰のために、学級経営の力、生徒指導能力を十分身につけさせることは、どの専門分野を選んでも必須だと思います。
- 大学生には、特に、社会人として高い意識を全員に持ってもらう必要がある。すばらしい方もいたが、軽い意識で仕事をしており、規範意識に欠けたり、学校外の生活が破綻しているような人もいる。教職の厳しさも認識できるように教育するべきだと思う。
- 大学生には教員としての基礎をきちんと指導してほしい。技術面の指導よりもっと教師としてのものとなるものを身につけさせてほしい。
- 大学でなければできない教育をぜひ実践してほしい。
- 大学生の附属でなく、公立校での教育実習で身なりや言動等の徹底的な指導をもっと行ってほしい。
- 地教委等が募っている各種ボランティア活動等に積極的に参加して欲しい。
- 学校教育、社会教育問わずにいろいろな活動に参加し、学んで欲しい。
- できる限り長期の現場実践を体験させて、広く学校職員の業務を理解させてほしい。
- 徳島県内のことだけに集中している？と思われることもある。身内が多いせいかもしれない。
- 他の大学の出身者とも交流する機会を増やして考えの幅を広げていく。
- 特にありませんが、免許講習の授業を他の大学のようにもっと充実させてほしいと思います。
- 特に改善すべき点は思いあたらないが、これからも常に学校現場と密に連携を取り、実践を通しての研究を続け、その成果を広く学校に還元していただきたい。
- また、教授等の先生方の講師としての役割も、是非継続してもらい、研修会等で学校現場の先生方のスキルアップもお願いしたい。
- 特に教員である前に、人としてどう行動していくか、自分に自信のあるのはいいことだが、先輩の意見に耳を傾けることも必要である。(私が出会った院生の感想です)
- どんな教育なのか、どんどんアピールして欲しいです。
- 鳴門渦潮高校と鳴教大(体育)との連携が渦潮高校の学校要覧で紹介されているが徳島大学農学部(新設?)への地域枠の推薦として農学部を持つ県内の高校から2名割り当てられると聞いた。同様に鳴門渦潮高校から鳴教大への道が開かれれば両者にとって一層、メリットが大きいと考える。
- 鳴門教育大学を卒業したことを鼻に掛ける傾向がある。現場での責任感、実践力を

強くしてもらいたい。

- 現場に役立つ教師の育成が大事である。
- 人間的な魅力をもつことができ、高い目標をもった人材を育成するために、幅広い教養や目標となる方との出会いも大切であり、そういった内容をカリキュラムの中に組み入れていかれてはどうか。後半では、やはり現場で通用する実践力を備えた力が必要であり現場との交流を積極的に行っていく必要があると思われる。
- 日頃、学校現場で感じていることですが、教員が児童生徒の気持ちをくみ取れなかったり、人間関係をうまく構築できなかったりした場合に学級経営や授業がうまくいかず児童生徒、保護者とトラブルになる場合があります。もちろん学習などの指導力も大切ですが、それ以上に教育者としての熱意や人間的愛情が大切だと思います。(貴大学に対してというものではありません)
- 必要な場合には、自分が教員に向いているかどうか、向いていない場合の進路も含めてじっくり指導をしてほしい。
- 一人一人性格や気質等あり個別の指導となるとむずかしいと思いますが、教育現場は年々むずかしくなっています。特に教養豊かであっても人とのコミュニケーション能力の必要な場所でもありますので、何よりも大切なことは、保護者及び子どもへの細やかな配慮対応ことばがけです。自分の適性をきちんと知り、進路を決めていけるようご指導よろしくお願いします。(保護者からのアンケート評価も厳しいものがあります)
- 厳しい書き方になってしまいましたがお許してください。
- 人を育てる役割を担う教職に就いて、心が折れないようにと願います。ぜひ子どもに慕われ保護者に信頼される教員を育成して下さい。
- 広く教養を身に付けることももちろん大切ですが、人間的に強くなるとか、コミュニケーション力をつけるとか、教養や専門分野以上に身に付けた方がいいことがあると思います。
- 現在の学校現場は大変厳しい。メンタルを強くもたないとダメだと思います。
- ふれあい実習の時期は、運動会の練習をしていることが多く、普段と違うので、時期をズラした方がよい。
- 平成18年卒の教師でたいへん困っている方がいます。学習指導、生徒指導とも劣り子ども、保護者をはじめ、職員にも迷惑をかけ、今は、教育委員会の方も困らせております。教師にはむいていない資質ですので、教師に向いているかどうかの判断を卒業時に指導していただければよいと思います。
- 変化の激しい教育現場に対応できるより実践力のある教員の育成を、今後更に期待したい。
- ボランティアで来る学生は、意欲があり教師に適しているのもっと教育現場を知る機会を増やせる方向で。
- ボランティアの学生には、鳴教大で部活動しやすい時間割を組めるように改善してはどうか。
- 附属小中以外の現場の教育実習を増やせないか。

- 小中の教員養成には、基本的なスキルが身につくようなカリキュラムも必要ではないか。(板書、漢字の書き順、理科実験の基本、実技の基本など、またパソコン操作の習熟を)
- 精神的に打たれ強い人間に。(親、子どもにクレームを言われても負けない心などを)
- 本県が求める教職員像、とりわけ、子どもと共に地域と一体となって徳島らしい「学び」を想像することができる力を備えていること。教育課題に積極的な対応ができる実践力を備えていること、そんな教員を養成していただきたい。
- 身近な先輩(初任者、5年、10年経験等)との交流会や懇談会を通して、教職の喜びやなやみ、苦労などを聞かせていただいて、キャリアに応じた目標を具体的に設定することができるようにする。
- メンタル的に強い教員を育成してほしい。
- 人とのコミュニケーション力、児童への愛情のある教員が現場にどんどん増えるよう育成してほしい。
- もう少し高度なレベルの修士課程論文が書けるようにして欲しい。専攻コースにもよりますが、せっかく素晴らしいファカルティが揃っているのに、学生の研究レベルがそんなに高くない気がします。
- 幼児教育へのプライドはもっていてほしい。
- 新任として、先輩の先生方や保護者に対しての変なプライドは心の奥に秘め、素直な気持ちで取り組む姿勢をもっている。(すぐに落ち込んだり、腹を立てたりすることなく)意欲的で明るく前向きな学生を育ててほしいです。
- 今、幼保が一つになろうとしています。幼稚園教育の大切さをしっかり伝えてほしいです。
- よく教育されているように思います。
- 予防教育の効果は本当にあるのか。他の学習時間を削って取り組む効果があるのか。
- より徳島県との結びつきを強くしながら、現場で求められているより広い視野をもった教員養成に励んでいただきたい。
- 理論があって実践することは大切であるが、理論が現場の実態と大きく異なっていないか常に検証をしていく姿勢をつづけてほしいと思う。
- 中心となって動くことのできる教員を育ててほしい。(自覚を持った教員を)
- 理論的には、先端の教育事情を捉え、熱心に研究に取り組んでいるが、卒業教員の現場での教育活動に対する視野のせまさを感ずることが多い。
- 就職活動に対する甘え(選択幅のせまさ)のないような指導を心がけてほしい。
- 論文の完成度を求めるのではなく、実践中心の研究を期待します。
- 私自身、大学院で学ばせていただきましたが、ほとんど大学に来ることもなく、研究もしないで修士論文を書き上げて卒業していく学生が多くいました。大学院としての責務を果たしているのか疑問に思いました。
- 鳴門教育大学や大学院を過去5年以内に修了した教員は知りませんが、鳴門教育大学出身者のイメージは、真面目で熱心な教員が多い—今までの経験でそう思います。

- 子ども達の生きる力は、学校だけで、教員だけで育めるものではなく、様々な人々との交流やふれあい、また多様な体験を重ねる中で育まれるものです。
- また、地域創生の観点から、これからの子ども達には地域に愛着や誇りを持ち、地域の課題を解決していく力が求められています。
- こうした意味からも、これからの教員には外に開かれた大きな視野に立った学校観、教育観を持ち、子ども達に関わっていく力を育成することが大切であると思います。